

2018年1月1日号

年始の生活に潜むヒヤリ・ハット

～家庭内事故を防止しましょう～

暖房用品使用時のヒヤリ・ハット

- ・電気ストーブをつけたまま寝てしまい、布団に火が付いた。
- ・石油ストーブの火を消さずに給油し、引火した。

→事故防止のポイント

- ① 布団や洗濯物など可燃物のそばでストーブを使用したり、エアゾール缶などを置かない。
- ② 石油ストーブ、ガスストーブなどの燃焼器具使用時は、一酸化炭素が急激に増加し、中毒になる恐れがあるので、必ず換気をする。
- ③ 湯たんぽ・カイロでの低温やけどに注意する。

さまざまな食品で窒息のヒヤリ・ハット

こんな食品に注意が必要です！！

- ・きなこもちを一口で食べた父親が喉に詰まらせ、家族が背中をたたいて取り出した。
- ・みかんを急いで口に入れたところ、喉に詰まらせた。

60歳以上で特に事故の多い食品類は、「もち」「ごはん類」です。中でも「もち」は正月に事故が多く、死亡事故につながります。十分注意しましょう。

→事故防止のポイント

- ① 食品を小さく切り、食べやすい大きさにする。
- ② 急いで飲み込まず、ゆっくりとよく噛み砕いてから飲み込む。
- ③ 食事の際は、お茶や水などを飲んで喉を湿らせる。
- ④ 高齢者や介護を要する人は、粥などの流動食に近い食物でも窒息を起こすことがあるので、食事の際は目を離さない。

風呂場でのヒヤリ・ハット

風呂場での事故に注意です。

- ・石鹸の泡が残っていて、風呂場の床で転んでしまった。
- ・脱衣所の寒さで狭心症を起こした。
- ・浴槽のふちが高く、足を引っ掛けて転倒しそうになった。

→事故防止のポイント

- ① 風呂場の濡れた床で滑って転びそうになるので、床についた水滴をふき取ってから入る。

- ② 冬の時期は風呂の蓋をあけて、事前に浴室を温めたり、脱衣所にヒーターを置く。
- ③ 浴室に手すりをつけるなど、工夫する。

問合せ・・・消費生活センター ☎（４２２）２１５５